

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872000948		
法人名	株式会社 キュート		
事業所名	グループホーム たんぼぼ	ユニット名	2F
所在地	〒305-0861 茨城県つくば市谷田部3393-1		
自己評価作成日	平成27年10月17日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0872000948-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年12月18日	評価機関 決 済 日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切にする・地域の人達の交流に参加する」を理念とし、利用者が穏やかにその人らしい生活ができるよう全員で実践している。たんぼぼ公園には手作りピザ窯とバーベキュー窯があり、活動やイベントで何度か活用された。その他の取り組みでは「利用者様が出来る事、出来るような事は一緒に行く。笑顔で楽しい共同生活を送れるよう、職員は協力し支援する。」を目標にしている。ホールで調理・お菓子作りなどをしたり、散歩や日光浴、公園での食事、夏は2階踊り場を活用してバーベキューや水遊びを行った。また皆で外出をする事にも力を入れた。居心地の良い環境で利用者様の笑顔・笑いが増えた事を実感、今後も日々努力していこうと思う。地域との交流では、自治会に入り、缶拾いや地区祭りの参加、また地域の方が、たんぼぼ行事の参加もあり交流を深めている。日常では愛犬と共に散歩に行き、出会った方とのあいさつを大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

全職員が常に理念を念頭におき、地域の一員としての交流や楽しみを持ちながら、穏やかな生活が送れるように支援している。
市のペタンク大会や地域の祭り、パチンコ店でのパチンコ体験、事業所敷地内にあるピザ窯やバーベキュースペースを使用した屋外活動を活発に行っている。
居間や廊下には、利用者の作品である絵葉書や切り絵、書道や折り紙等、季節感のある作品を掲示している。
キャラバンメイトの資格を持つ職員が3名おり、地域包括支援センターと協力し認知症サポーターを養成したり、代表者は「認知症よろず相談所」を設置して地域の高齢者やその家族の相談に応じる等、地域に密着した事業所となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人達の交流に参加します」の理念を掲げ、たんぼぼの行事には案内書を配り参加協力して頂けるよう働きかけている。また、町のイベントにも積極的に参加できるようにしていきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧を届けている。散歩に出掛けた時は、近所の方と挨拶や世間話を交わし、時にはお花を頂いた事もあった。その他、散歩がてらのゴミ拾いや地域の祇園祭り、花まつり、農業祭の参加があり交流を深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバン・メイトの資格取得者が3名おり、認知症の人の理解や支援方法を、地域の方をを活かし応援する準備を整えている。また、『よろず相談所』として、地域の相談窓口を開いている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は、リーダー会議やカンファレンスで挙げサービスの向上につながるよう検討している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での関わりのほかにも、管理者は、高齢福祉課担当職員と連携をとりながら、協力関係を築いている。利用者の訪問調査時に、本人の状態やケアサービスの取組みについて伝えている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、常に意識できるように、職員トイレの壁にポスターが掲示されている。施錠に関しては、2階入り口のすぐ近くに階段があるため、安全を考慮し、施錠をしているが、外にでたいとの希望がある時は対応している。対応が遅れる時でも希望に添えるよう努力している。また、業務中の意識も忘れず、職員間で話す機会がある。身体拘束をやむを得ず必要とする方には、事前に家族へ説明し、了承を得て行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する講義を受ける機会があった。また、職員間で虐待について話し合う場を設けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の勉強会に参加し、理解を深め、活用できるよう努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、利用者やご家族と話し合いを持ち、不安、疑問を訪ね理解、納得を図っている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接意見や要望を聞くことで、文章では伝わらない思いや気持ちを汲み取れるよう、現在は面会時やイベントの時に直接聞いている。また、アンケートをとり、今後の運営に反映させるよう努めている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案、相談などがあれば随時聞いている。今後も、職員が意見を挙げやすいように取り組んでいきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時で仕事を終えられる環境を作っている。その中で、職員の努力、実績、勤務態度を把握し、やりがいを持てるように責任をもってもらい、それに見合った給与を段階的に上げている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員が目につくところに掲示し、自主的に研修に行けるように環境を整えている。又、その人に合った研修を勧めている他カンファレンスにて、研修内容を発表する等、参加意識を高めている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会を通じた交流や勉強会に参加し情報交換をおこなっている。また参加出来なかった他職員にも報告し、サービスの質の向上につながるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子をよく観察し色々な場面で会話を交わし、耳を傾けている。本人の望みや求めているものは何か本人本位で捉え、安心して生活するための関係作りに努めている。そこで得た情報は記録に残し職員間で共有、必要に応じ意見交換をしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は常に明るく笑顔で接するよう心がけ、話やすい雰囲気作りに努めている。また家族の要望や相談等には態度や言葉使いに充分気をつけ話を聞き、相談内容によっては管理者、ケアマネに相談する等、より安心できる関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要な支援について本人や家族と話し合い、サービスを行っている。また、その後の様子を記録に残し、変化に伴い見極め、対応している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を一緒に行い、暮らしを共にするもの同士の関係を築くうえで大事なことだと認識している。また、親しみのある関係の中で楽しい時間を共有し、利用者様の表情の変化・言葉、様子に応じて関わっている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事では案内をだし参加の協力を呼び掛け、本人と一緒に過ごせる時間を設けている。また面会時は、家族の時間をゆっくり過ごせるようにし、家族との絆を大切にしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	うまく出来ていないので、今後は大切にしていきたいと思う。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通して、自然体で利用者同士関わり、支え合えている時もある。また、活動や職員の仲介なしで利用者同士が関わっている時は、その時間を大切にし、見守っている。利用者同士協力して完成させる事で、個々の信頼性を生み出すよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった利用者に対しては、これまでの生活が継続できるようホームでの生活の様子やケアの工夫など必要な情報を伝え、経過を見守っている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の行動や表情等、言葉意外での観察も行い、希望や意向を把握し、職員が情報を共有できるように記録に残している。困難な場合は、職員間で意見交換・上司に相談し本人本位な検討を心がけている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後の関わりで分かった情報は、把握できるように記録に残している。入所前の生活歴情報・サービス利用の経過をもう少し詳しく提供してほしい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、排便チェック、服薬確認、本人の様子の観察を行っている。また、1日の過ごし方（行動、言葉、仕草、表情等）を毎日の記録に残し現状や変化の把握に努めている。体調の変化（心身状態）は必ず申し送りをしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が挙がった時は、必要な関係者やカンファレンスで柔軟に話し合い、意見やアイデアを反映させている。今後は家族に参加してもらえるよう取り組んでいきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録として個人経過表があり、日々の様子や変化を個別に記入し、職員間で情報を共有しながら実践している。その他、経過表を基にした1カ月分の個人評価表をケアマネがまとめ、介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や状況に応じて、通院介助、往診等、柔軟な支援に取り組んでいる。住環境においては、介護チェーン エイジフリーの訪問により、一人ひとりが安心して生活できるよう支えている。また、職員がリハビリ体操の資格を取得したので、生かしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と行き慣れたスーパーに買い物に行ったり、近隣で行われるイベント等に参加できるようにしている。本人がより“安全で豊かな暮らし”を過ごせるよう地域資源を把握し、支援できるよう努力したい。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医師の往診や受診を支援している。往診、受診に際しては、様子や必要な情報を伝えている。また、緊急時には、訪問看護師に直接電話で相談し、支援を仰ぐこともある。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談できる環境が整っており、受診時や往診時に利用者の様子、状態、心配な事を相談しアドバイスや指示を頂いている。24時間、医療連携を図っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の通院から良い関係づくりに励んでいる。入退院時には病院関係者と情報交換や相談をし、安心して治療ができるよう関わっている。入院中には定期的に面会し、治療経過や容態を聞いている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	慎重な問題であることから、管理者が行っており、職員全員の共有まで至っていない。話し合う時期や決定方針が、職員間で共有できる事を課題とする。定期的に終末期の勉強会を取り入れてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当を含む救命講習を2年に1回行っている。夜間時の急変時の対応マニュアルが職員室やホールに貼ってあり、職員間で共有できている。ホームで考えられる急変や事故の対応も、独自訓練を行う機会を持ち、実践力につなげていきたい。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、職員は非常時に対応できるよう避難方法を身につけられるよう努力している。災害発生時のマニュアルも掲示している。また、地域との連携をとれるよう協力体制を築いている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を認知症である前に、人生の先輩である事や、病気が進行していく中でも人としての気持ちがある事を忘れず、プライバシーを損ねない言葉のかけかたや対応を心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように、日々の関わりを大事にし、会話や行動の中で、見出せるよう努力している。また自己決定できるよう働きかけているが、一方的なおしつけはせず、本人が自己決定できるような言葉かけや選択肢を最小限にするなど工夫している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動や休息、過ごし方は人それぞれであり、一人ひとりのペースを大切にしている。その一方で、一日の流れが概ね決まっているが、その中でもいつもと同じ事と決めつけず、職員は利用者の様子から思いや望みの発想を広げ、1日1日、本人の希望に少しでもそえるよう努めていきたい。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2カ月に一度、移動美容室を利用し、カットやパーマ等、希望にあわせている。また、家族が定期的に散髪してくれている方もいる。服は本人確認のうえで四季にあったものを選んでおり、洗濯後のものは着回ししすぎないように心掛けている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや準備、片付けは利用者と一緒に協力しあっている。また調理場所を台所と限定せず、ホールのテーブルも活用することで、好みや力をいかしながら行える事が増えているほか、男性利用者も気軽に参加している。食事は音楽を流し、職員は利用者と同じテーブルと一緒に食事をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、食事メニューは食材業者に依頼し配達していただいている。食べる量、形状（刻み）は本人の状態に合わせて提供し、毎日食事摂取量を記録している。利用者と一緒に食事をしているので、バランスよく摂取できるよう声を掛けている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、一人ひとりの状態に合わせて、（歯ブラシ、うがい）見守りや介助を行っている。その他、義歯使用の方は夜間ポリドントにつけているが、外したがない方は無理には行わず、歯ブラシでよく磨いている。また、口腔内の状態を把握するため、記録表にチェック欄を設けている。より把握するためには、定期的な歯科の往診も必要だと思う。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの時間、排泄状況の記録により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。夜間は状況に応じて居室にポータブルトイレや尿瓶を設置している。また、本人からの訴えや、落ち着かないなどの行動の変化がある場合は、その都度、誘導や見守り等の支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、牛乳を毎日摂取している。運動への働きかけとして、外出や散歩、毎日のリハビリ体操を行っている。どうしても便秘傾向になってしまう方には、医師と相談し、内服薬の調整を行い、定期的に排便があるようにしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴、午後の時間帯と決まっているが、その中で時間は出来る限り本人の希望にそえるよう事前の確認をしている。入浴順番は、毎回同じにならないよう記録にとり参考にしている。入浴時は、利用者の思いや悩み、不満に耳を傾けている。入浴拒否をする方に関しては、なるべく無理強いをせず、本人の様子を見ながらスムーズに入浴できるよう努力している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように日中の活動を無理なく促し、規則正しい生活を支援している。本人の体調や気分によっては日中でも休んでいただくことがある。車いすの方は、日中車いすに座っている事が多いので、ソファや席から離れた空間へ移動したり、ベットに横になるなど休息の工夫をしている。夜間は電気や温度の調節をはかり、気持ちよく眠れるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬についてのファイルがあり、詳しく確認できるようになっている。服薬変更や症状の変化があった時は連絡事項表に記録し申し送りを行っている。また、服薬が難しい方・拒否の方には、医師と相談し、工夫しながら行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が張り合いや喜びを感じ、その人にとって意味のある生活が送れるよう役割や活動（歌、調理、編み物、散歩、外出等）の様子を記録にとり参考にしている。職員の一方的な観点からではなく、利用者の思いや感じ方を大切にしていきたい。役割を持つ事でメンタル面が安定する方には継続できるよう支援し、外出や散歩での息抜きの時間も大切にしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2階踊り場を活用し気分転換をはかったり、近所の散歩や、買い物の同行等にでられるよう働きかけている。定期的に、皆で食事に出かけたり、外出できるよう支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には施設側で管理されているが、希望者には小遣い程度のお金を所持して頂き、そのお金でほしい物を購入している。所持していない方でも、外出時にはお金を所持し使えるよう、支援していきたい。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族の連絡先は温度表に記載しており、希望があった時はすぐに確認し電話できるようになっている。家族は近隣の方なので、手紙のやり取りはなく面会を大切にしている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掃除は毎日の他、定期的なものがありチェックリストを活用している。共同空間は適温で過ごせるように管理しており、寒い時季には加湿器も使用している。廊下には利用者の共同作品や写真を、利用者の目線にあわせて掲示している。生活感や季節感を感じながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには食卓、ソファがある。自由に活動をしたり、おしゃべりしたり、くつろいだりと、その時々々の居場所で思い思いに過ごしていただいている。また車いすの方も、移動できるようスペース作りは配慮されている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の個性や生活スタイルに応じて、フローリング、ベット、布団などを選び、馴染みのもの（テレビ、タンス、机、椅子、座布団等）を愛用して頂いている。また状況に応じ模様替えはできるので、職員間でも相談しながら居心地の良い居室作りに努めている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内には手すり、玄関には腰掛けが設置され安全に生活できるよう工夫している。またトイレや居室、洗面室には分かりやすい表示や目印をつけている。ホール内は、車いすの方が十分に通れるよう、テーブルの向きと位置を工夫しスペースを確保している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが ○ 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない